

FROM STUDENTS 学生からのメッセージ

今、思うこと

酒井 亜希子 (大学院4年)

私は、成育小児歯科学分野に所属しており、生体材料学分野で研究しています。大学院四年生となり終わりが見えてきました。この機会に、今までを振り返ってみようと思います。

「出会い」について思い返せば、研修医時代の院外研修先の先生方やアルバイトをさせてもらった医院の先生方やスタッフの皆さんから、様々な事を学ばせてもらいました。また、研究のほうでは、九州大学生体材料学分野の先生方や留学生の方達から、多くの事を教えてもらいました。人と出会う事で、多くの事に気付かされ人間としての幅を少しずつ広げてもらったと感じています。

また最近の事になりますが、歯科理工学会九州支部夏期セミナーというものに参加しました。このセミナーは、大学や開業医の先生方、業者の方などが参加し、各々の研究成果を発表し意見交換などを行うものです。参加大学の中に釜山大学も含まれていて、釜山大学の先生と知り合うことができました。釜山大学の現状や韓国の事を知ることで、日本と違っているもの、そして変わらないものも感じ、韓国という国、さらに韓国の歯科に対する興味が沸きました。

このような出会いを与えてくださった成育小児歯科学分野と歯科医療工学分野の先生方に感謝です。私がまだ大学院に入ったばかりの頃、大学院の先輩が「きっと、大学院に行って良かったと思うようになる」と言われていました。大学院を終えるその時まで諦めずにいたら、最後に振り返った時にきっとそう思うはずですよ。

大学院時代に出会ってお世話になった先生方へ感謝を表すためにも、頑張らなければならないと思っています。



視野を拡げてくれたソフトボール部

神谷 治伸 (大学4年)

私はソフトボール同好会に所属し、今キャプテンをやっています。キャプテンという立場では部活のことを考えることで、今までの学生生活では経験で



きなかったことが色々経験できました。私たちは他の部活のようにオールデンタルという歯学生だけの大会はないのですが、その代わりに早良区と西区のソフトボール大会に参加しています。部員が皆、この大会で勝つことを目標にして日々練習しています。でも、練習ばかりでなく毎年春と夏に合宿を兼ねた旅行に行ったり、新入生歓迎などでバーベキューをしたり、ヤフードームへ野球観戦に行ったりと楽しみながらやっています。そのような楽しい仲間たちですが、キャプテンとしてはまわりを見ながらみんなをまとめていかなければいけないので、今までただ一方的な考え方しかできていなかった自分に気づかされました。

だからこそ勉強面でも、歯科医師としての将来について思い描くとき、真正面の道だけしか見えていなかったのが、他の道もたくさん見えるようになり、勉強も楽しく思えるようになりました。

今の私の目標は、CBTとOSCEを無事突破し、その後に控える春のソフトボール大会でチームの仲間たちと優勝することです。

FROM PARENTS 保護者様からのメッセージ

学生に対する取り組みが、細やかで真摯

14年前に長女が入学し、学生共済会の役員をさせていただいていた折、なんとすぐれた組織が運営されているのかと感嘆したことを思い出します。今また、末息子がお世話になっております。そこで父兄後援会で、学長先生をはじめとする諸先生方のお話を直接伺う機会が増え、学生に対する取り組みが、細やかで真摯だと感じております。また、学校職員の方々の、学生を思う働きに感心するとともに感謝致しております。同窓会においてもまた学生の学びの場をよりよくするための活動が行われています。

東日本大震災と原発事故のいわゆる風評被害により原発近くの大学では大幅な定員割れをきたしております。これでは大学運営自体が成り立つのだろうかとお人ごとながら心配になる状況です。この様な自然環境は人知の及ぶところではないのですが、幸いにも福岡大は自然環境においても憂う点はなにもありません。

さあ学生諸君、君たちが学ぶための環境は整っている。後は君たちが学習するだけです。

ただ単に歯科医師数を調整する為の、資格試験とは言い難い国家試験に振り回されず、より多くのことを、人として歯科医師として学んで下さい。そして学生生活を十分楽しんでください。私たち保護者はそのためには努力を惜しみません。しかし学ぶのは学生諸君、君たちです。



白本 光七 様
(父兄後援会理事)

後輩達へ、また父兄として、今、感じること

国家試験合格者数を2400名に限定する方針、国民皆保険制度を守ろうとして予算の枠内で現場の歯科医師に苦難を強いる方針、イヤだったら保険治療をしなればいいとでも言いたげな数々の態度…暗く、僻易とする話題だけが世の中を駆け巡っております。

しかし、明るい話題と言えば九州7県の中で佐賀、大分の2県で先輩が県歯科医師会会長になられたことくらいでしょうか。開学から時間は経ちましたが、同窓生は様々な分野で、他大学を凌駕する勢いをみせています。今から狭き門の歯科医師を目指す後輩達に、また大学教員の先生方に願うことは、素直にハイと言える人となって欲しい、また、そういう学生達を育てて欲しい、ということです。現在、雇用する機会も多いのですが、組織への向上の“欲”ではなく、“我欲”しか感じられない人も時々います。もう、歯科医師という資格だけで勤務時間を自分の為だけに費やしても、給与は発生しない、自分に見合う報酬を成果として達成しなければいけない時期なのです。素直に人の話を聞き、実践し、オールマイティに仕事を選ばず、日々向上する、そういう歯科医師の卵を育てて頂ければと思います。

一方、今は歯科医師にとってチャンスなのです。口腔は最初の消化器、呼吸器の入り口であり、アゴの歪みや習癖などは形態や咀嚼・嚥下、全身の姿勢の歪みまで、機能に大きく影響します。また顔面・口腔には不定愁訴が発生します。それを治せる、直せる、エキスパートは歯科医師(口腔歯医学医)しかいないのです。歯の治療痕やポケット深さを計測し、主訴の歯を削合・抜髄・充填したり、義冠・義歯を装着するだけの狭い領域が仕事ではありません。他の歯科分野への選択と集中、逆転の発想の時期は迫りつつあります。その時代に適応できる素直な、バランス感覚の良い学生達を育てて頂きたい、また日本で唯一の特色ある、臨床に強い私立歯科大学であって欲しいと切に願っています。



下田 恒久 様
(父兄後援会副会長)